2026年4月7日
JBCCホールディングス株式会社
（ JBCCグループ ）

お客様の変革を AI で実現し、定着まで支える AI サービスモデル構想

Customer Innovation Team × AI Orchestration Platform を中核に据え、中堅・中小企業に伴走

IT サービス業のJBCCホールディングス株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:東上 征司)は、お客様の変革を AI で実現し、伴走するための取り組みとして、Customer Innovation Team × AI Orchestration Platform を中核とする AI サービスモデル構想を発表します。本構想は、今後の具体化を通じて、設計から実装・定着までを一体で支援する提供価値の方向性を示すものです。

生成 AI の進化により、IT 活用の意思決定の中心は、情報システム部門から現場・経営へとシフトしつつあります。この変化の中で、当社は、企業内に DX/AI 人材を十分に確保しにくい現実がある一方、ガバナンス要求やセキュリティリスクへの対応を含め、AI 活用を企業活動として継続運用するための設計が今後ますます重要になるものと認識しています。

当社はこの変化を、AI を起点に中堅・中小企業の変革需要が本格化する新たな成長局面と捉えています。加えて、当社が注力してきたクラウド、セキュリティ、JB アジャイル開発(基幹システム再構築)は、AI 活用を企業活動として継続していくうえで欠かせない要素であり、更なる需要の拡大が見込まれる領域であると認識しています。

こうした既存の強みと顧客基盤を活かし、当社自身が AI Native Company への転換を進めるとともに、社内実践で培った知見や仕組みを、Customer Innovation Team × AI Orchestration Platform を中核とするサービスとして展開し、設計から実装・定着までを一体で支援する AI サービスモデルへと提供価値を進化させていく構想です。これらの取り組みを通じて、お客様の持続的な成長に貢献し、当社グループビジョンである『躍動する社会』の実現を目指します。

当リリースでは、生成 AI を取り巻く事業環境が大きく変化する中、投資家の皆様との対話に資するよう、当社の見立てと取り組みの方向性を取りまとめました。

■ 生成 AI の進化による顧客ニーズの変化

当社は、生成 AI の進化によって IT サービス需要が一律に縮小するとは見ていません。むしろ、当社が注力する中堅・中小企業においては、AI 活用の広がりに伴い、顧客ニーズは『開発そのもの』から『継続活用を支える設計・実装・運用』へとシフトしていくと考えています。生成 AI の進展により、システム開発の一部では自動化・高速化が進み、『作る作業』のコスト構造は変化していく一方で、業務における AI 活用の本格化に伴い、企業活動として継続的に活用するためのガバナンスや運用設計、既存・周辺システムとの連携の重要性が高まっていきます。当社はこの変化を新たな事業機会と捉え、提供価値の高度化と収益モデルの進化につなげていきます。

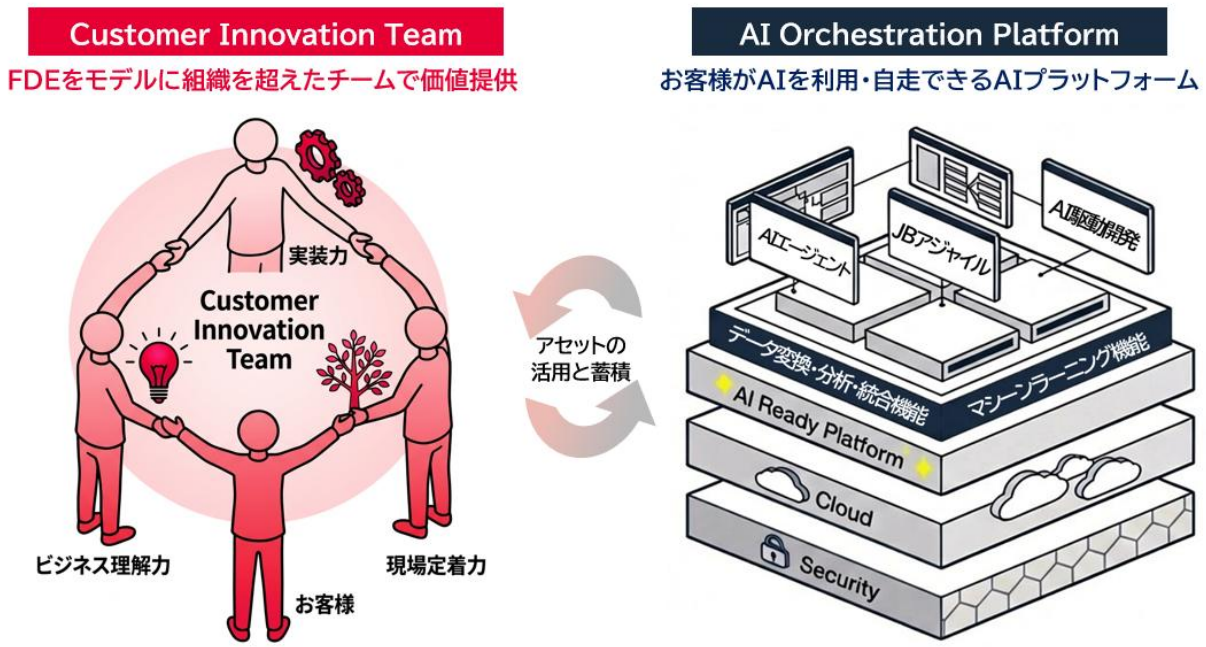
特に中堅・中小企業では、AI 活用が進むほど、企業側には以下の要素が不可欠となり、AI に関する知見を有する IT サービス事業者を介した設計・実装・運用の必要性が高まると考えています。

- セキュアな利用環境（クラウド基盤、権限、ログ、データ取り扱い、監査耐性）
- AI エージェントの作成・運用（品質、更新、事故対応、責任分界）
- 複数名・組織単位での利用設計（標準化、ガバナンス、運用ルール、教育）
- 既存の基幹・業務システムとの連動（業務への組み込み、運用と継続改善）

当社は、AI エージェントについて、個人による試行は進む一方で、組織として本番活用していくためには、ガバナンスと運用設計が重要になると考えています。

■ Team × Platform による当社の AI サービスモデル構想

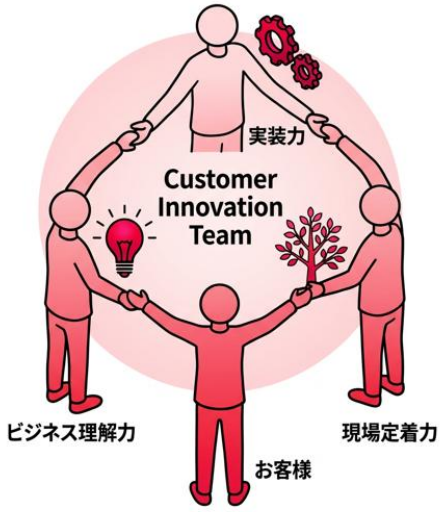
当社はこの課題に対し、「Customer Innovation Team」(人材) と「AI Orchestration Platform」(環境) を両輪とした AI サービスモデルを構想しています。Customer Innovation Team が顧客理解に基づいて実装・定着を進める過程で得られる知見(設計パターン、運用ノウハウ、AI エージェントの部品等)は、AI Orchestration Platform にアセットとして蓄積し、次の顧客提案・提供へ再利用します。これにより、アセットが蓄積され、提供価値が継続的に高まる循環モデルを実現していきます。



■ Customer Innovation Team ―設計・実装・定着を担うチーム―

業務理解・コンサルティング、AI を含むエンジニアリング、現場定着・運用の専門性を束ねたチームにより、設計から実装・定着までを担うことを想定しています。特定の『超人』に依存せず、役割分担したチームで推進することで、スピードと再現性の向上を目指します。

Customer Innovation Team



- FDE(Forward Deployed Engineer)をモデルに、**顧客の現場に入り込み、課題の特定から実装・定着までを一気通貫で担うチーム**
- **業務理解・コンサルティング、AIを含むエンジニアリング、現場定着・運用の専門性**を束ね、設計から実装・定着までを担う
- **特定の『超人』に依存せず**、当社が**培ってきたエンジニアリング力と業務知見・運用機能**を活かすことで、**変化に対応できるスピードと再現性を高める**

■ AI Orchestration Platform ―ストック型のセキュアな AI 活用環境―

クラウドとセキュリティを基盤に、データ変換・分析・統合機能、AI エージェント、AI 駆動開発アプリケーション等を組み合わせ、AI が業務価値を継続的に生み出すための環境を構築・拡張していきます。また、本構想は、月額課金によるストック型の収益モデルとしての提供を想定しており、AI エージェント数や適用領域の拡大に応じて、提供価値と収益の双方が継続して拡大するモデルを目指します。

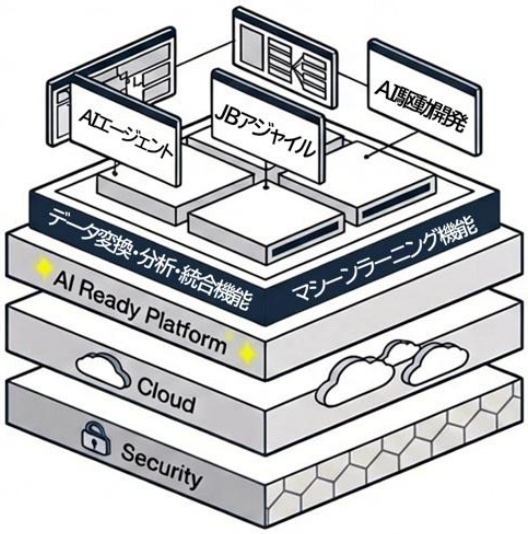
AI Orchestration Platform

当社独自の付加価値

■ Cloud
クラウドインフラ基盤(IaaS)・クラウドアプリケーション(SaaS)にマネージドサービス(運用管理／コスト最適化／セキュリティ)を付加してお客様へ月額提供

■ Security
守る対象に応じたセキュリティソリューションにマネージドサービス(SOC／運用支援／インシデント対応)を付加してお客様へ月額提供

■ JBアジャイル
基幹領域(販売・会計・生産など)を対象に、アジャイル型の独自開発手法「JBアジャイル」を用いてどこよりも高品質なシステムをどこよりも速く提供



付加価値の強化

- 全社プログラム推進「J-AIinnovation」
- AIスタートアップとの連携強化

■ AI エージェント PLANNED
お客様の様々な業務を自動化・効率化・高度化する AI エージェント。設計・実装・運用まで含めて提供

■ AI Ready Platform PLANNED
生成AIを業務で安全に使い、AI エージェントやAI駆動開発で実装した業務アプリケーションを継続的に改善・運用するための基盤。クラウドとセキュリティを前提に提供

■ AI 駆動開発 PILOT
要件定義から保守フェーズに至るまで、システム開発におけるすべての工程で「AI駆動開発」を取り入れ、品質と生産性向上
「JBアジャイル」との融合で独自の付加価値を加速

■ AI サービスモデルを支える当社の強み

当社は、汎用的な SaaS を提供する事業者ではなく、中堅・中小企業の現場に伴走し、クラウド、データ活用、基幹システム、全方位のセキュリティ対策と運用を一体で支えてきた IT サービス事業者です。その実績と顧客基盤を活かし、AI を組み合わせることで、DX/AX を加速する実装が可能であると考えています。

当社が本構想に至った背景には、AI と Innovation を掛け合わせた社内 AX 活動「J-AInnovation」における実践があります。J-AInnovation では、生成 AI を業務で活用できる状態にするために、単にツールを試すのではなく、業務データを扱える AI 基盤と、AI エージェントを業務利用できる運用基盤の整備を進めてきました。その過程で、業務への組み込みに向けては、利用許可の整理、セキュリティ対策の導入、データ整備、運用ルールの設計といった企業活動として使い続けるための前提条件が大きなハードルになることを経験しました。

この経験を通じて、生成 AI 活用のボトルネックは『AI の能力』そのものではなく、業務プロセスの理解、データの整備、そしてセキュリティ環境の構築を含み、使い続けるための『土台づくり』にあることが明確になりました。

そしてこのハードルは、顧客企業においても同様に発生します。特に中堅・中小企業では、体制や専門人材の制約により、セキュアな環境整備や運用設計を自社単独で進めることが難しく、ここが AI 活用を前に進める上での大きな障壁になり得ると当社は考えています。

こうした認識のもと、当社は、社内で得た実践知をもとに、セキュアな AI 活用環境である「AI Orchestration Platform」と、業務理解・実装・定着を担う「Customer Innovation Team」を組み合わせたサービスモデルに事業機会があると判断しました。

当社が Customer Innovation Team を中核に据える根拠は、社内の AX 活動を通じて、現場部門とエンジニアが一体となって AI 活用を実装し、業務成果につなげるやり方を実証してきた点にあります。当社内でも、現場部門だけでは業務課題を AI やシステムの要件に落とし込みきれず、エンジニアだけでは現場業務の要求や制約を十分に捉えきれないため、取り組みが PoC にとどまりやすいという課題がありました。そこで当社は、現場部門とエンジニアを組み合わせたチーム編成により、業務課題の特定から設計、実装、定着までを一体で進める取り組みを開始しました。

例えば、経理部門とエンジニアが協働し、新リース会計基準の判定を支援する AI エージェントを作成した結果、1 件あたり 3 時間要していた処理をわずか 2 分に短縮しました。このように、業務知識と実装力を組み合わせることで、業務成果に直結する改善が生まれることを確認しています。

「J-AInnovation」では、経理、法務、エンジニア部門など、業務改善に取り組みたい社員が自ら手を挙げた 37 部門のチームで、2025 年 10 月から開始し、結果として半年間で約 1,800 個の AI エージェントが作成されました。重要なのは、現場部門が自らの業務課題をとらえ、エンジニアと協働して形にし、改善の成功体験を積み上げてきた点にあります。

当社は、この『現場×エンジニア』の協働モデルを、顧客企業向けに提供可能な形へと再構成し、Customer Innovation Team として展開することで、中堅・中小企業の変革を AI で実現し、定着まで支援できると考えています。

■ 今後の業績への影響と方針

企業による AI 活用の本格化に伴い、クラウド基盤の整備やセキュリティの確保に加え、DX を通じた企業の競争力強化と事業継続性確保の重要性が高まっています。こうした中、当社が現在注力するクラウド、セキュリティ、JB アジャイルによる基幹システム再構築については、生成 AI の進化を踏まえても、当面は継続的な需要が見込まれると考えています。特にクラウド・セキュリティは、ストック型収益として継続的に積み上がる特性を有しており、当社の安定的な成長基盤を形成しています。

本構想は、こうした既存事業と連続性を持つものであり、当社がこれまで培ってきた顧客基盤、継続運用の実績、業務理解を活かしながら、AI 活用の設計から実装・定着まで支援するものです。当社は、生成 AI の台頭を『逆風』ではなく『成長機会』と捉え、既存事業の強みを活かし、本構想の具体化を進め、顧客価値の向上と新たな収益機会の創出につなげていきます。

今後、投資家の皆様との対話を重ねながら、需要の高まりや事例、業績貢献、本構想の具体化の進捗等、情報開示の解像度を段階的に高めていきます。また、本構想は中長期的な経営計画の検討とも整合させながら具体化を進め、決算説明等の機会も含め継続的に発信していきます。

関連リリース

2026 年 3 月 3 日 スパイスコード株式会社との資本提携に関するお知らせ
https://ssl4.eir-parts.net/doc/9889/tdnet/2771184/00.pdf

＜本件に関するお問い合わせ＞
JBCCホールディングス株式会社 経営企画 IR 担当
E-mail: ir@jbcc.co.jp